

高松亨 教授追悼号の刊行にあたって

大阪経済大学情報社会学部長 草 薙 信 照

2017年1月、高松亨先生は61歳という若さで逝去されました。その直前まで、お体の無理をおして学生指導に情熱を注がれる一方、気のおけない同僚たちと（お医者さんの忠告も聞かずに）楽しそうに酒を酌み交わしておられたお姿が、今も心に残ります。

高松先生は1955年8月に京都市でお生まれになり、1978年3月に大阪大学・基礎工学部を卒業されました。その後、大阪大学大学院・基礎工学研究科で工学博士を、大阪市立大学大学院・経済学研究科で経済学修士を取得されています。高松先生のご専門は産業技術史ですが、大阪市立大学大学院での中岡哲郎先生（ご専門は技術史；本学では情報社会学部の前身である、経営情報学部の初代学部長）との出会いが、高松先生の研究者としての進路を決定づけたことは間違いないでしょう。

本学には1996年4月に助教授として着任し、1997年4月の経営情報学部開設に貢献されました。2003年11月には教授に昇任し、2009～2010年度の間は学部長・理事として、経営情報学部の改組＝情報社会学部の誕生に奔走されました。2012年4月に情報社会学部が開設した際には副学部長として、新学部の運営にもたいへんご尽力をいただきました。

高松先生は私にとって、人生において2年先輩、本学では1年先輩、しかもベースは同じ工学系という、ほぼ同世代・同分野の方でした。しかし、高松先生が経済学に傾倒して学究一筋で産業技術史の分野へ進まれたのに対して、私は民間企業を経て情報処理分野へ進んでいたからでしょうか……意見が合うような合わないような微妙な距離感；当初から感じていたこの奇妙で絶妙な感覚を、私は心地よく楽しませていただきました。

ふだんの高松先生は飄々としてとらえどころのないご様子でしたが、その柔和な表情の裏には、強い信念に裏打ちされた強固な意志が垣間見える人でもありました。大学におけるカリキュラムのあり方や共通教育の大切さ、学部の改革や大学の将来構想などについて、熱く議論を戦わせたことを今では懐かしく思い出します。

産業技術史の研究活動に情熱を傾ける一方で、「学生を導き育てる」という一貫した姿勢で教育にも心血を注がれました。学生たちと交わるときは兄貴分のように慕われ、学部運営においては優れた軍師のように頼りにされ、学内においてはいつも多くの教職員から親しみをもって迎えられる、稀有な人物でありました。

研究・教育・大学運営において、本学に多大なる貢献をなされた高松先生に敬意を表し、ここに大阪経大会から『高松亨教授追悼号』を発刊させていただきました。高松先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。